

第3学年B組 国語科学習指導案

授業者 碓氷愛実

1 単元名・教材名

「多様な読み手を説得する文章を書こう ～思いをわかってもらうには～」
○文章の種類を選んで書こう (『国語3』光村図書)

2 生徒の実態と本単元の意図

(1) 本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 〔思考力, 判断力, 表現力等〕	学習内容	単元・教材名 〈実施時期〉	学習活動と関連する 他領域等の指導
・伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。(中2B(1)イ)	・段落相互の関係を踏まえた書き方 ・文章の構成や展開の工夫のさせ方	「表現や構成を工夫して書こう～私の附中物語～」 (2年・1月)	・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話しや文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。〔知識及び技能〕中2C(1)エ

(2) 生徒の実態と本単元の意図

生徒はこれまで「小学生やその保護者に向けた本校を紹介するパンフレットを書く活動」や「自分の経験を物語として構成を工夫して書く活動」など、多彩な学習活動によって書くことの資質・能力を高めてきた。作品を生徒同士で読み合うだけでなく、校外にも発信することによって、外部からも高評価を受けている。しかし、年度当初に行ったアンケート結果の『書くこと』の学習は好きですか(好き・嫌いの二択式)という問いについては、45.1%の生徒が「嫌い」と回答し、その理由として「自分の考えを言葉に表すのが難しい」、「納得のいく文章にならない」、「題材を決めたり、書き出しを考えたりするまでに時間がかかってしまう」などが挙げられた。2年間の学習のなかで多方面から一定の評価を得ているにも関わらず、文章を書く活動に悩みを感じている生徒がいることがわかった。また、第2学年の書くことの指導事項に根差した問いにより、「自分の文章のよい点がわかっている」生徒は27.8%、「自分の文章の改善点がわかっている」生徒は65.4%と、自分の書いた文章に対して自信をもてない生徒が多いことがうかがえる。本校の研究主題のキーワードでもある「挑戦心」を育むためにも、書くことの学習を通して自分の思いや考えを自信をもって伝えられる生徒を育成したい。

本単元では、関心のある事柄について、多様な読み手を想定し、文章の種類や構成を工夫して書く活動活動を設定した。『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編』121ページにあるように、文章は不特定多数の多様な読み手に対して書く場合もある。どのような読み手からも一定の理解が得られるような工夫が求められる。今回は新聞社に生徒の作品掲載を依頼している。新聞購読者、生徒、保護者という様々な立場の読み手がいる場面を設定し、自分の思いや考えが伝わるように言葉を吟味し、文章の種類や構成を工夫して書くことができるようにさせたい。

(3) 「挑戦心を引き出す学習指導と生徒の個別最適な学びの在り方」に向けて

【手立て1】挑戦心を引き出す学習指導の工夫

従来、書くことの学習は、その特性上、個人の活動に終始してしまう部分が多かった。推敲の場面で助言し合うことはあるものの、限られた交流時間で、ある程度完成している文章に的確な助言をすることは難しい。まず生徒に「挑戦しよう」と思わせるために、今回は題材決定からアプリケーションや思考ツールを用いた交流場面を設け、書くプロセスの要所に生徒同士のやりとりを組み入れていく。また、3時間目の交流の際には、印刷した下書きを段落ごとに切り離し、それを用いて段落構成や表現について班で助言をし合う。あえて散り散りになった文章を班員で並べなおすことによって、通常よりも丁寧に文章を点検することができ、段落構成にも注目しやすくなる。このような学習活動を通して、個では到達できなかった学びを得たり、自らの文章のよい点が見いだせたりすることを期待し、次の書くことの学習にも「挑戦しよう」とする生徒を育成したい。

【手立て2】個別最適な学びの工夫

教科論でも述べたように、個別最適な学びを実現する手立ての一つに、「学習者が選択する機会を設ける」ことがある。今回は、題材や文章の種類を自分で選択させることで、自分の興味関心があることについて述べたり、自分が取り組みたい文章の種類で書いたりすることができるため、個に応じた学習が可能である。

3 単元の見直し

(1) 文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。

〈知識及び技能〉(1)ウ

(2) 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉B(1)イ

(3) 言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしたりしながら、言葉がもつ価値に気付こうとしているとともに、進んで読書をし、言葉を適切に使うとする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

4 本単元における言語活動

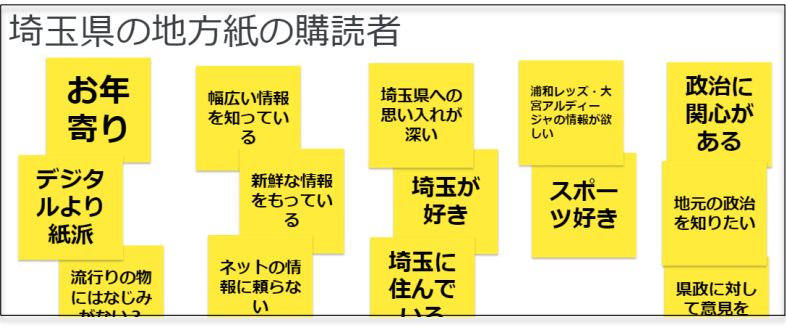
関心のある事柄について、多様な読み手を想定し、文章の種類や構成を工夫して書く活動。

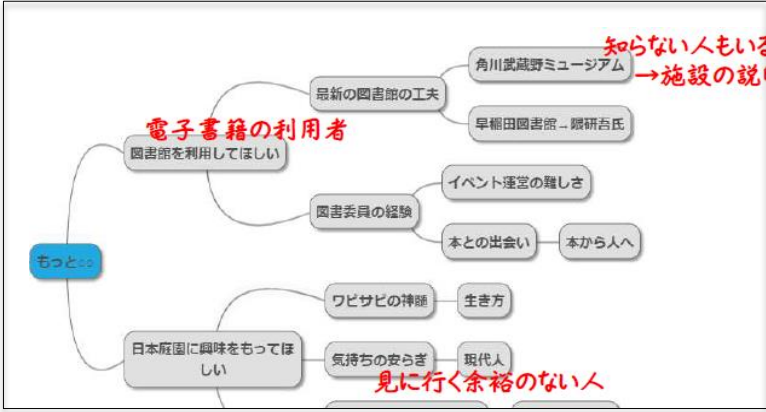
(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)ア)

5 本単元の評価規準

【知】知識・技能	【思】思考・判断・表現	【主】主体的に学習に取り組む態度
①文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)ウ)	①「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ)	①粘り強く、読み手を説得できるように文章の構成を工夫し、学習課題に沿って自分の考えを書こうとしている。

6 指導と評価の計画 (全5時間) (…「挑戦心を引き出す学習指導の工夫」・「個別最適な学びの工夫」を特に意図した場面)

時	学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1・2	<p>○単元の課題を知り、学習の見直しをもつ。</p> <p>多様な読み手を説得する文章を書こう ～思いをわかかってもらうには～</p> <p>○読み手である「新聞購読者」「生徒」「保護者」のそれぞれの立場を Google Jamboard を用いて整理する。</p> <p>・共同編集が可能のため、「新聞購読者」「生徒」「保護者」の三つのボード上に、想定される立場を付箋に記入して貼り付ける。(クラスの人員を3分割する)</p> <p>・できあがったボードは、教師が PDF 化して共有する。</p> <p>○マインドマップとブレインストーミングを用いて、自分の伝えたいことを整理し、題材を決める。</p>	<p>○学習課題</p> <p>○学習の進め方</p> <p>○多様な立場の想定の方</p> <p>Google Jamboard による読み手の立場の整理の例 (一部)</p>  <p>○題材の決め方</p> <p>○情報の整理の仕方</p>	
<p>共通テーマと想定される題材</p> <p>①もっと○○…生活のなかで見落とされがちであるが、意外な楽しみや示唆がある事柄など (例) もっと図書館を利用してほしい 花の生態はおもしろいので花を育てる人が増えてほしい</p> <p>②なぜ○○?…生活のなかの疑問や改善してほしいと思っている事柄など (例) エスカレーターのマナーはなぜ守られないのか 手書きの文字のほうが本当に気持ちが伝わるのか</p>			

	<p>○決定した題材に対して、どのような立場をとる人がいるのかを、班でブレインストーミングを行う。</p> <p>・様々な立場の人を想定するためのヒントとして「分かり合うための言語コミュニケーション（報告）」（文化庁）を参考資料として紹介する。</p>	<p>○多様な立場の想定の仕事</p> <p>マインドマップによる思考整理の例（一部） （ブレインストーミングの内容を加筆している）</p> 	
<p>○多様な読み手を想定し、文章の種類をおおまかに決める。</p> <p>○下書きをワープロソフトで入力する。</p>		<p>○文章の種類とその特徴</p> <p>○文章の種類とその特徴を踏まえた書き方</p>	
<p>3 (本時)</p>	<p>○想定した多様な読み手を説得できるような文章の構成を検討する。</p> <p>○グループで互いの下書きを読み合い、構成や展開、語句の用法、叙述の仕方等について助言し合う。</p>	<p>○多様な読み手を説得する構成や展開の工夫</p> <p>○思いや考えが伝わる表現の仕方</p>	<p>【思考・判断・表現①】 下書き・観察 ・ここでは、文章の構成や展開を工夫するために、下書きの文章を段落ごとに検討できているかどうかを確認する。また、友人の助言を友人の助言を踏まえて文章の構成や展開を工夫しようとしているかを確認する。</p>
<p>4</p>	<p>○助言を踏まえて、文章の種類を決定し、文章を完成させる。</p>	<p>○文章の種類とその特徴を踏まえた書き方</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度①】 作品 ・ここでは、完成した作品が多様な読み手から一定の理解を得るために、自分の意見を裏付ける事実や具体的な例を用いるなどの論理の展開を工夫できているかを確認する。</p>
<p>5</p>	<p>○作品集を読み、友人の作品を読んで気付いたことや考えたことを書く。</p> <p>○単元の学習を振り返る。</p>	<p>○文章の種類とその特徴を踏まえた書き方</p> <p>○学びの自覚化</p>	<p>【知識・技能①】 ノート ・ここでは、自分の伝えたい内容が読み手に伝わるように文章の種類を選んでその特徴を踏まえて書くことができているかを確認する。</p>

7 本時の学習指導（3／5）

(1) 目標

- ・文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。

【思考力、判断力、表現力等】B(1)イ

(2) 展開

【前時の学習内容】 ○文章の種類とその特徴を踏まえた書き方		
学 習 活 動	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<p>1 本時のねらいを知る。</p> <p>本時のねらい 【全体】</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">友人の助言を踏まえて文章の構成や展開を検討しよう。</p>		<p>○学習の目標を示す。</p>

2 想定した多様な読み手を説得できるような文章の構成を検討する。

【個人】

○多様な読み手を説得する構成や展開の工夫

○下書きを印刷したものを生徒に配り、段落ごとにハサミで切り取らせ、実際に配置を変えながら考えさせる。

期待したい生徒の記述 ※吹き出し部分が生徒の思考

① 所沢に「角川武蔵野ミュージアム」ができた。一昨年のNHK紅白歌合戦でYASOBIが演奏した場所、といえはわかる人も多いのではないだろうか。

② 「角川武蔵野ミュージアム」は、図書館と美術館と博物館が融合した文化複合施設である。建物の四階から五階にかけて展開される、高さ八メートルの巨大本棚に囲まれる空間「本棚劇場」には違い棚のように、互い違いに複雑に入り組んだ構造の本棚に約三万冊が収容されているという。本好きの私にとっては夢のような空間である。

③ 地元の図書館に足を運ぶと、勉強に励む学生は多いが、ゆったりと読書をしている人は少なく、カウンターも閑散としている。

④ 図書館の利用人数は年々減少していると、お世話になっている司書の方が教えてくれた。利用者数が減ると、そこに割かれる財源も少なくなり、蔵書が減ったり、新刊が入らなくなったりしていくだろう。本のない図書館に人は来ない悪循環である。

⑤ しかし、目当ての本がなくても、本棚を巡っていきけば新たな出会いがある。学生時代に、時間潰しや勉強の息抜きに図書館の本を手に取り、思わぬ名作に出会ったという経験がある人もいるだろう。かくいう私も装丁に惹かれて手に取った一冊が、自分の人生観を大きく変えてくれたことがあった。

⑥ 本棚いっぱいにはずらりと本が並んでいる。それをどれでも気兼ねなく手に取り、ページをめくることが出来る。電子書籍ではこの感覚は味わえないし、本屋になら古い本もたくさんあるのが図書館の魅力だろう。

⑦ 例え美しい施設でなくても、図書館には他にはない魅力がある。この施設をきっかけに、地元の図書館や学校の図書館も利用が増えてほしいと願っている。

もともとは②と③の間に入れていたが、「図書館の魅力」は私が一番伝えたいことだから結の部分に入れる。

根拠を、自分で見たことだけでなく、司書さんから聞きとったことを入れるとより説得力が増すだろう。

施設のイメージがつかない人がいるかもしれない。
→話題になった出来事を紹介する。

3 グループで互いの下書きを読み合い、構成や展開、語句の用法、叙述の仕方等について助言し合う。

【グループ】

○思いや考えが伝わる表現の仕方

- 活動の流れ（一人につき8分ずつ助言する）
- ・段落ごとに切られた下書きを、班員で適切な順番に並べながら、構成や展開を確認する。
 - ・文章の要旨を伝え合い、自分の伝えたいことが伝わっているかを確認する。
 - ・多様な読み手を説得するためにはどのように書けばよいかを助言し合う。

期待したい話し合いの様子

ミュージアムの建設の理由を入れたら、「図書館離れ」の根拠になるんじゃない？

「図書館離れ」の根拠としては図書館の利用人数が減っているというデータを入れようと思ったんだけど、図書館によってばらつきがあるみたい。貸し出し冊数が増えているっていうデータも見つかったんだけど、地元の図書館の司書さんは減っているって……どのように書けばいいかな。

今回Aさんが伝えたいことは地元の図書館に来てほしいということだから、これ以上ミュージアムの話はいらないと思う。あの施設は特別すぎるし、却って伝えたいことがぶれてしまわないかな。

誤った情報を載せたり、はっきりしない書き方をしたりするのは読み手の信頼を失うと思うから、地元の図書館は減っているというデータを載せるか、市単位でどうなっているかを調べてみたらどうかな。

評価場面

- ＜評価規準＞
- 【思考・判断・表現①】
- 下書き・観察
- ・ここでは、文章の構成や展開を工夫するために、下書きの文章を段落ごとに検討できているかどうかを確認する。また、友人の助言を友人の助言を踏まえて文章の構成や展開を工夫しようとしているかを確認する。
- ＜「努力を要する」状況（C）への手立て＞
- ・論理の展開に注目できていない生徒には、教科書の「具体化・抽象化」の解説などを示し、自分の体験を抽象化させる文を挿入させたり、抽象的な意見を具体例を用いて説明させたりする。
 - ・話し合いで説得力に欠ける文章であると指摘された生徒には、伝えたいことに基づく根拠となる事実を複数挙げさせ、文章の中に取り入れるようにさせる。

4 本時のまとめとして、助言を踏まえて自分の文章の改善点を記入する。

【個人→全体】

【次時の学習内容】 ○文章の種類とその特徴を踏まえた書き方